

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491600019	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	医療法人 聖和会		
事業所名	グループホーム さくら愛川		
所在地	(〒243-0307) 神奈川県愛甲郡愛川町半原 3 4 0		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 通い定員 宿泊定員	名 名 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 ユニット数	18 区 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年2月19日	評価結果 市町村受理日	令和7年5月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人聖和会が設置主体となり、後藤整形外科を母体に施設運営を行っている。 また、法人全体の社会資源を有効活用する事により、ご利用者様のADL向上に 特化したグループホーム運営を行っている。
具体的には、医師や看護師の支援やリハビリスタッフ・管理栄養士と常に情報交換 出来る体制を整え職員相互の技術向上とご利用者様の安心・安全な生活基盤を整える ことに主眼を置き、日々のサービス向上を全職員一丸となり努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町 2 3 日土地山下町ビル 9 F		
訪問調査日	令和7年3月12日	評価機関 評価決定日	令和7年5月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業所は、小田急小田原線本厚木駅からバスで約40分、「清雲寺入口」バス停下車し、徒歩3分ほどの山間に立地する。鉄筋コンクリート造2階建て、2ユニットのグループホームである。広い駐車場を有した事業所の周囲は、自然豊かな環境となっている。法人はグループホームの他、整形外科、介護老人保健施設、居宅介護支援事業所などを運営し、地域の高齢者福祉の拠点となっている。 【法人の専門職の力を活かした利用者の自立支援】 職員は、法人内の介護老人保健施設の医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職と連携して、常に一体となって、利用者のADL向上に向けた支援をしている。言語聴覚士が利用者の嚥下状態を確認して、管理栄養士と連携し、それぞれに合った食形態を提案している。毎朝バイタルチェックをして健康管理をしている。職員は、出来ることはやってもらうなど「その人らしい生活」が送れるように支援している。利用者は、出来る範囲でテーブル拭きやお茶配り、下膳などを手伝い、リハビリを兼ねた様々なレクリエーションを楽しんでいる。 【地域との連携強化】 半原細野区・下細野町内会に加入し、年2回の地域清掃活動に参加している。また地域の夏祭り時の子供神輿の立ち寄り、移動スーパーの来訪を通して、利用者と地域の方が交流している。地域の盆踊りには、家族と利用者が参加して楽しんでいる。大規模災害を想定した地域防災協定を細野区と結び、駐車場が地域の避難場所となっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームさくら愛川
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	☐	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくよう事務所入口に掲示している	事業所の理念は、法人の運営方針「ゆっくり・いっしょに・楽しみながら・一人ひとりのその人らしさを大切にした生活を送る」に基づき、事業所開設時に管理者と職員が話し合って策定した。「1. 親しみやすく笑顔で接します。2. 自立を妨げず個人を尊重します。3. のびのびとした生活を送れるようにサポートします。4. 家庭的な雰囲気を作ります。5. 安心できる環境を提供します。6. 地域との関わりを大切にします。」の6つからなる理念は事務所と各フロアに掲示して職員に周知している。特に管理者は、利用者の自立支援と地域との連携を大切に考え、職員に指導している。職員は見守りを重視し、「その人らしい生活」が送れるように、利用者各々が出来ることに目を向けて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事を利用させていただき、地域住民の方々との交流を深めさせている。自治会のお祭りにて子供神輿がホームに立ち寄っていただいたり、盆踊りにご招待いただきご利用様と参加させていただいている。	半原細野区・下細野町内会に加入している。年2回の地域清掃活動(あいかわごみゼロ・クリーン)や地域の夏祭りに参加している。子供神輿が事業所の駐車場で休憩し、利用者との交流している。近所の方が育てた花を頂くこともある。休止していた事業所の納涼祭の再開を検討している(8月予定)。車いす清掃のボランティアや傾聴ボランティアの受け入れも再開も検討している。細野区長から移動スーパーの提案があり、現在、毎週木曜に事業所の駐車場で販売を実施している。利用者とスーパーを訪れた地域の方が交流している。半原中学校の福祉体験授業や津久井高校・福祉学科の実習の受け入れ体制を整えているが、現在申し込みがない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に参加いただき、お話する場を設けており、グループホームでの入居者様の生活状況を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。要望や改善点についてフィードバックをいただくようにしている。	3ヶ月毎に対面での運営推進会議を開催している。参加メンバーは、愛川町地域包括支援センター職員、愛川町介護者の会代表、地域住民代表、家族代表、細野区長、民生委員、法人の事務長、管理者などである。議題は、事業所の運営状況、事故報告、行事などの案内と情報交換である。「民生委員に会議の参加を要請しては」との意見を受け、働きかけた結果、民生委員の参加が実現した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場には書類提出等にて、定期的に訪問している。今後は、訪問時に担当者へ施設の状況をお伝えし、助言頂きながら、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。	愛川町高齢介護課には、介護保険要介護認定の更新申請の代行手続きや各種相談、事故報告、空き状況の報告などを行っている。運営推進会議の議事録も持参している。高齢介護課からは「看取りに関する研修」地域包括支援センターからは「身体拘束等の適正化研修」などの案内が届いているが、参加はしていない。生活保護費の受給者は現在はいない。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的開催される同法人内での研修会で、身体拘束について学ぶ機会を設けている。身体拘束が必要な状況においては、ご家族より同意書をいただいているが、現在身体拘束者なし。	「身体拘束廃止等適正化のための指針」を策定し、マニュアルも整備している。法人の「安全対策委員会」を3ヶ月に1回オンラインで開催している。事業所の「安全対策委員会」も3ヶ月に1回開催している。参加者は管理者と委員会のメンバーである。オンライン研修を行ない、9月に非常勤職員も含めて職員全員が受講している。管理者は、スピーチロックを行わないように「利用者本位に考え、自立支援の延長において、不適切な言葉遣いをしないように」と職員に伝えている。職員間でもお互いに注意し合える環境作りに努めている。入社時には「接遇研修」が必須となっている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的開催される同法人内での研修会で、高齢者虐待防止法等を学ぶ機会を設けている。 又、事業所内での言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。	「虐待防止の為の指針」を定め、マニュアルも整備している。法人の「サービス向上委員会」に事業所の委員が参加している。内容を管理者に報告し、フロア会議やフロアノートなどで職員に説明している。年1回、「身体拘束廃止等適正化検討の研修」と一体的にオンライン研修を行なっている。非常勤職員も研修を受講している。法人は、全職員を対象に神奈川県のアナケート調査を実施している。とりまとめた結果を事業所にフィードバックしている。虐待は行われていないが、万が一にも発見した場合は、即時管理者に報告し、適切に対応するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。ご家族面会時にはホームでのご様子等伝え、フロア会議等で職員に報告している。	契約時のアセスメントから利用者、家族の意見や要望を収集している。面会時や電話連絡時、また毎月利用料金の支払いに来所した際に把握するように努めている。運営推進会議の中でも家族の要望や意見を聞いている。把握した内容は、フロアノートに記入して、職員間で共有している。家族の要望として納涼祭の復活や、1月にインフルエンザが発生したために、制限している外出や外食の制限解除についての要望が上がっており、対応を検討している。毎月、請求書送付時には、行事の際の利用者の写真を同封している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けており、実行可能なものは即、行っている	フロア会議を毎月開催しており、その際に職員の意見を把握している。全体会議は、感染症予防のために実施していない。職員は日常の支援においても、その都度管理者に意見を伝えている。管理者は個人面談を年3回実施して、意向の把握に努めている。職員からは、出勤時間帯の変更要望、紙ベースでの報告書が多いことや、事業所のパソコン台数を含め、オンラインで行われる研修を自由に受講できる環境作りが必要なことなどについて意見が上がっている。	所有しているパソコンは1台のため、各フロアでの活用が難しい状況です。各フロアに、1台ずつパソコンを設置することを期待します。また紙ベースでの記録は手間や保管が大変で、タブレットの活用など、事業所のDX化に向けた取り組みを期待します。オンライン研修を実施されているおり、不自由なく受講できる環境づくりに向けて取り組まれることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給休暇等、最大限考慮した休みを確保している。又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。	職員の出勤はタイムカードで記録し、法人が一括管理している。人事考課面談を年3回実施している。まずは4月に職員各自の目標を設定し、7月、3月に評価して人事考課に結び付けている。介護福祉士資格取得を目指している職員に向けて、法人が模擬試験を2回実施して、合格に向けての支援をしている。取得後は手当を支給している。認知症介護実践者研修を修了した職員に手当を支給している。ケアマネジャーの資格を持ち、その業務についた場合にも手当を支給している。健康診断を毎年1回、実施している（夜勤勤務者は年2回）。年1回、ストレッチングを行なっている。毎年、ハラスメントのオンライン研修を実施している。毎月のシフト調整の際、休みの希望がある場合には、申告により優先的に希望日に休みを取れる。非常勤も含め、有給休暇や産休、育休などを利用できる。常勤職員には、勤務年数に応じ、特別休暇を付与・報奨金を支給している。2階の「家族介護室」を休憩室として、利用している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員に対し、ウェブ上での研修を受けるよう指示されており職員の技術向上に努めている。	キャリアパス制度が設けられており、職員は目標を持って、業務に励むことができる。法人が年間の研修計画を作成し、それに基づいてオンライン研修が行われている。職員は受講後に報告書を提出している。非常勤職員も会議や研修に参加している。新人研修は法人事務長が座学研修を行ない、その後事業所でOJT研修を行なっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が年末年始等に他施設を訪問し施設の状況などの情報を得ている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様とお会いし、お話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ、関係作りに努める。ホーム見学も随時対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としところがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。ご本人のニーズを導き出し、満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。	職場の元同僚の来所がある利用者がいる。面会場所を制限し、1階は玄関横のソファ、2階は「家族介護室」としている。携帯を所有している利用者もいるが、電話の取次ぎも行っている。手紙の下書きや投函の手伝いをしている。家族対応で墓参りや馴染みの理容室などに出掛ける利用者もいる。偶数月に来所する訪問理美容師と馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族にご連絡させていただいたり、御家族からご相談等が有れば、気軽に連絡していただけるよう契約終了時にお話させていた		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の御意向を把握するよう努めている。ご自身の好物（好きなお菓子）などのお話されたときは、ご家族にお持ち頂き、提供するなどの対応を行っている。	入居前のアセスメントにより、思いや意向の把握に努めている。家族から聞くこともある。職員は散歩時や入浴時などの1対1の場面を大切に、利用者の意向を把握している。発語が困難な利用者には、表情やしぐさなどから推測している。把握した内容は、フロアノート、ケア記録、業務日誌などに記入して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などをご本人、ご家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後もご本人やご家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、病院、ソーシャルワーカー、ケアマネジャーなどから情報収集し、アセスメントを実施し、初回介護計画書を作成している。その後1ヶ月程様子を見て、介護計画書を見直している。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で、変化のある場合にはその都度見直している。毎月のフロア会議で「ケアカンファレンス」を行い、管理者と職員全員で検討し、利用者や家族の意向、医師・看護師などの意見を取り入れて、計画作成担当者が介護計画書を作成している。介護計画書のサービス内容に番号をつけ、ケア記録には実施した番号を記入して、介護計画書と日々の支援の連動を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士に週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア、高校生の現場実習、中学生の職場体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍のため休止していた。昨年より再開したが、希望される生徒がおらず、実績はなし。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2 通りで対応している。毎月1回 法人の医師が訪問。	利用者のほとんどが法人の医療機関をかかり つけ医として、毎月1回、整形外科医の訪問診 療を受診している。家族対応で眼科、内科、 精神科を受診している利用者もいる。医師、 看護師、薬剤師などの情報提供書は利用者ご との個別ファイルに保管している。家族同行 の外来診察結果はフロアノートやケア記録に 記入している。月1回、歯科医が診療に訪れ、 治療を行なっている。週1回、歯科衛生士が来 所して、口腔ケアを行なっている。法人内の 介護老人保険施設の看護師が月1回来所して健 康管理をしている。薬局の薬剤師が月2回一包 化した薬を届けてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	看護師と介護士とで随時連携を 図り相談・助言・対応を気軽に 行えている。24時間支援体制 の下、指示を仰げる体制が築け ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワ ーカーと連絡を行い、情報交換に 努めている。入院時は定期的に 病院に電話連絡を行い情報交換 を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。	契約時に「重度化した場合における（看取り）指針」を説明し、家族と同意書を取り交している。事業所の看取り支援として、法人の介護老人保健施設とも連携して、対応する旨伝えている。看取りの希望があれば対応可能であるが、開所以来看取りの実績はない。食事が摂取できなくなると、協力医療機関の総合病院（愛川北部病院）の療養病棟での看取りを希望する利用者が多い。看取りに関するオンライン研修を実施している。「さくらターミナルガイドライン」を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に開催される同法人内での研修会に参加し、看護師や地域の消防士を招き急変時の対応方法の指導をいただく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。区代表者と連携をし地域防災協定を結んでいる。	年2回、避難訓練を実施している。うち1回は夜間を想定した訓練である。利用者も訓練に参加して、駐車場まで避難している。地域防災協定を細野区（自治会）と締結している。地域の避難訓練は実施されていないが、事業所の消火器訓練に近隣の方が参加している。備蓄は利用者、職員、ボランティアを含めた30名分の食料や飲料水などを5日分確保している。熱源となるカセットコンロも備えている。寝具類は、貸し出しができるように数を増やし、確保している。BCP（事業継続計画）は法人が作成しており、自然災害対策については事業所の避難訓練において実施し、感染症対策には法人が研修や訓練を実施している。法人内の介護老人保健施設とは、災害時に連携がとれる体制がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。	管理者は利用者を敬い、言葉遣いに留意し、名字に「さん付け」で呼ぶようにしている。年1回オンラインによる接遇研修を行なっている。トイレ誘導時の声掛けは、小声で周囲に分からないように配慮している。個人情報を含む書類は、事務所のカギの掛かるキャビネットに保管している。パソコンは、パスワード・職員IDを設定し、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限りご本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った色・髪型にして貰っている。衣類の選択も本人と確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲で食事前のテーブル拭きや、お茶配り、下膳を行って頂いている。	対面式のIHキッチンで、利用者を見守りながら、調理ができる。3食ともにご飯とみそ汁は職員が作っている。主菜や副菜は配食サービスを利用し、職員は湯煎して、盛り付けして利用者に提供している。利用者はテーブル拭き、お茶やおしぼり配り、配膳や下膳など出来る範囲で手伝っている。家族が対応し、外食に出かかっている。クリスマス会には職員手作りのポテトフライやクリスマス料理を提供している。誕生日会には職員手作りのケーキで祝っている。言語聴覚士が嚥下状態を確認して、管理栄養士と連携して各利用者の食形態について、職員に助言している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士や言語聴覚士との連携を行い助言を貰う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し記録と分析を行っている。個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。	布パンツを使用して、ひとりでトイレに行く利用者は1名、他の利用者はリハビリパンツとパッドを使用している。基本的には排泄パターンを把握して、トイレ誘導している。夜間用のパッドを使用する利用者もいる。各フロアにトイレは2ヶ所あり、いずれも車いす対応である。各トイレには清拭用のタオルウォーマーを用意している。インフルエンザ罹患の為、隔離をしていた時期には、日中、職員2名で介助をし、夜間、オムツ対応としていた利用者が、支援を行った結果、立ち上がれるようになり、日中トイレでの排泄ができるようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。水分摂取量等が少なくならないよう心がける。下剤に頼らないよう心がけているが、下剤を使用する事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらす・職員を変えるなど工夫している。	入浴は週2回で、8時30分から16時までを基本としている。1日9名程が入浴している。浴室は1階に機械浴が設置されている。介助用チェアが2台あり、内1台は寝たまの姿勢で利用できるため、体が不自由な方も湯舟に浸かることができる。入浴時間帯や回数の要望には出来る限り、対応しているが、現在、特段の要望はない。同性介助にも対応可能である。入浴を好まない利用者には担当者を変えたり、時間を掛けて丁寧に対応している。脱衣所にエアコンやヒーターを設置し、浴室は温度管理をし、入浴前にシャワーの湯気で温めて、ヒートショック対策をしている。毎回湯舟のお湯を替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ昼寝、就寝等を行っている。就寝時間の決まりもなく自由に過ごされている。定期的に寝具を交換し、温度調整も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用されている薬の一覧表があり職員が把握するよう努めている。内服後は内服一覧表に捺印している。又、隔週の薬剤師の訪問時には助言・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後にレクリエーションの提供を行っている。また、無理のない範囲で食事前のテーブル拭き、お茶配りや下膳等を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員がご本人の希望を把握するよう努めており、外出したい場所等の話があれば、ご家族にお話させていただき、ご家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、近所を散歩している。駐車場の周りは、季節によって咲く花を楽しむ利用者がいる。玄関先で外気浴をする利用者もいる。車いすの利用者も一緒に出掛けている。法人内の介護老人保健施設が所有する大型車を借りて、近くの中津川河川敷の「田代運動公園」で花見をしたり、「宮ヶ瀬ダム」の紅葉を楽しむこともある。外出後には、利用者の写真を家族に送っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の所持金は一括保管させていただいている。買い物を希望された場合、職員が代行し、買い物を行っているが、移動販売来所時に個人の財布をお渡しし、ご自身で精算される利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りのご要望があれば、職員が代行して投函を行う。又、電話もご要望があれば施設の電話を使用させていただくことも可能。個人でお持ちの携帯電話も使用できる状態か（充電されているか）職員がチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって良い空間を作るよう心掛けている。 廊下に行事の写真や季節を感じていただけるよう絵を飾っている。	リビングには大きな窓があり、明るい日差しが差し込んでくる。空気清浄機や加湿器が備えられている。週3回業者が入って共用空間と居室を清掃している。廊下は広く、2台の車いすが難なく交差できる。壁には行事の写真や利用者と職員が作成した季節の貼り絵などが飾られている。換気は、1日1回夜間に排煙口を開放し行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。	エアコン、照明器具、防災カーテン、寝具一式が備えられている。電動ベッドとマットはレンタル契約で使用している。利用者は使い慣れた家具やテレビ、仏壇や家族の写真、自身の作品などを持ち込んでいる。シーツ交換は週1回職員が行なっている。清掃は業者が行なっている。安全確保のため人感センサーを使用している利用者が3名いる。居室入口の表札には、職員が毎月作成する季節の貼り絵が飾られて、利用者がいつでも季節感を感じられるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。		

事業所名	グループホームさくら愛川
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	☐	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくよう事務所入口に掲示している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事を利用させていただき、地域住民の方々との交流を深めさせている。 自治会のお祭りにて子供神輿がホームに立ち寄っていただいたり、盆踊りにご招待いただきご利用者様と参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に参加いただき、お話しする場を設けており、グループホームでの入居者様の生活状況を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。 要望や改善点についてフィードバックをいただくようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場には書類提出等にて、定期的に訪問している。今後は、訪問時に担当者へ施設の状況をお伝えし、助言頂きながら、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的開催される同法人内での研修会で、身体拘束について学ぶ機会を設けている。身体拘束が必要な状況においては、ご家族より同意書をいただいているが、現在身体拘束者なし。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的開催される同法人内での研修会で、高齢者虐待防止法等を学ぶ機会を設けている。又、事業所内での言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。ご家族面会時にはホームでのご様子等伝え、フロア会議等で職員に報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けており、実行可能なものは即、行っている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給休暇等、最大限考慮した休みを確保している。 又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員に対し、ウェブ上での研修を受けるよう指示されており職員の技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が年末年始等に他施設を訪問し施設の状況などの情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様とお会いし、お話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ、関係作りに努める。ホーム見学も随時対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。ご本人のニーズを導き出し、満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族にご連絡させていただいたり、御家族からご相談等有れば、気軽に連絡していただけるよう契約終了時にお話させていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の御意向を把握するよう努めている。ご自身の好物（好きなお菓子）などのお話されたときは、ご家族にお持ち頂き、提供するなどの対応を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などをご本人、ご家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後もご本人やご家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士に週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア、高校生の現場実習、中学生の職場体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍のため休止していた。昨年より再開したが、希望される生徒がおらず、実績はなし。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2通りで対応している。毎月1回法人の医師が訪問。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士とで随時連携を図り相談・助言・対応を気軽に行えている。24時間支援体制の下、指示を仰げる体制が築けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡を行い、情報交換に努めている。入院時は定期的に病院に電話連絡を行い情報交換を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に開催される同法人内での研修会に参加し、看護師や地域の消防士を招き急変時の対応方法の指導をいただく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。区代表者と連携をし地域防災協定を結んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限りご本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った色・髪型にして貰っている。衣類の選択も本人と確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲で食事前のテーブル拭きや、お茶配り、下膳を行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士や言語聴覚士との連携を行い助言を貰う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し記録と分析を行っている。個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。水分摂取量等が少なくなならないよう心がける。下剤に頼らないよう心がけているが、下剤を使用する事もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらす・職員を変えるなど工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせ昼寝、就寝等を行っている。就寝時間の決まりもなく自由に過ごされている。定期的に寝具を交換し、温度調整も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用されている薬の一覧表があり職員が把握するよう努めている。内服後は内服一覧表に捺印している。又、隔週の薬剤師の訪問時には助言・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後にレクリエーションの提供を行っている。また、無理のない範囲で食事前のテーブル拭き、お茶配りや下膳等を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員がご本人の希望を把握するよう努めており、外出したい場所等の話があれば、ご家族にお話させていただき、ご家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の所持金は一括保管させていただいている。買い物を希望された場合、職員が代行し、買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りのご要望があれば、職員が代行して投函を行う。又、電話もご要望があれば施設の電話を使用していただくことも可能。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって良い空間を作るよう心掛けている。廊下に行事の写真や季節を感じていただけるよう絵を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。		



目標達成計画

事業所名 グループホームさくら愛川

作成日 令和7年5月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	事業所にて保有しているパソコンは1台のみ、フロアでは紙ベースでの記録物が主体となっている。また、法人全体で行っているオンライン研修受講の際も支障あり。	記録物の電子化	法人の担当に現状伝え、各フロアに1台ずつパソコンを設置してもらうよう、働きかける。	1年以内
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。